

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900083		
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	磐田市二之宮東21-4		
自己評価作成日	平成28年3月2日	評価結果市町村受理日	平成28年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvoCd=2296900083-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvoCd=2296900083-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、歩行訓練し、日光を浴び、体内時計を整え、体操し、体を動かしています。今までやってきた趣味や特技を活かし、習字、編み物、縫い物など昔を思い出しながらやっています。時には、外出し季節を感じたり、外食したりしています。また、利用者職員でおやつ作りをしています。個々に合った漢字プリントや、計算問題や地理などをやり認知予防に取り組んでいます。家族や、お知り合いの方が見えた時は、いつ来られても、気持ちよい挨拶で対応しています。施設は、駅から近く利便性がよいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR磐田駅より徒歩9分と利便性が高い場所に平成27年5月に開設しました。“こもれび”とは太陽が差し込むようなふわっとしたイメージから命名され、また市花 “つつじ”、市木 “くすのき” を以てユニット名を決めました。現在つづじに8名の利用者がおり、3月にはくすのきも始動します。普段から歩行訓練に力を入れ、「パレードに行くか」と利用者から発言があるほど楽しい習慣として定着しています。ゴールの4階バルコニーには人工芝とベンチが2脚配され、磐田市内を一望する外気浴が叶っています。玄関には利用者が交替で書く来所者名が掲示され、見事な達筆に驚きます。調査訪問時は「歓迎 磐田北高箏曲部様」とありました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員会議で読み合わせ、理念を確認している。施設内に理念を掲示している。	理念を振り返る場をもってはませんが、玄関には掲示があります。特段細かく言わなくても利用者目線に立った声掛けや行動が職員に身につけていると管理者は感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭りは、地域の方も参加して交流した。秋祭りには、屋台が施設に入り子供達の踊りを観たり、市民マラソン大会は、施設の前で応援した。地域のボランティアにも慰問してもらっている。高校の先生の実習を受け入れた。	内覧会は300名余の見学、8月の納涼祭にも67名で賑わい、子どもたちにも金魚すくいやかき氷で喜んでもらえました。自治会に加盟し、会長の心遣いから祭りの屋台が立ち寄ってくれ、ボランティア訪問も豊富です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の秋祭りでは、子供と大人の2台の屋台が駐車場で踊ってくれ、交流を深めた。慰問の方とも交流を図っている。しかし、近所では、施設の事を知らない方がおり、まだ理解されていない所もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度自治会長、民生委員2名、市、包括、家族の方に出席して頂き開催している。運営推進会議で出た意見を、業務に活かしている。	併設事業所と合同で、行政、地域、家族の出席も得られ、隔月開催できています。自治会長からの「認知度を高めるためにも広報活動を～」との意見には早速看板を設置し、徐々に効果が見られ功奏しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や、包括支援センターを訪問、現状を報告し、協力をお願いしている。	運営推進会議に足を運んでもらえ、事業所も毎月の事業所連絡会に出向いています。また介護保険課の適切な指導と毎月介護相談員の訪問もあり、様々相談しやすい関係にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故の危険がありそうな利用者は、身体拘束しないようにカンファレンスを開き、職員間で統一している。	開設間もないこともあり、「何が身体拘束にあたるのか？」といった基本的なことを学ぶ勉強会を開きました。また日常で困ることがあればカンファレンスで協議して解決策を見出し、最近ではヒヤリハットの提示も増えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の傷や、内出血、訴えに注意を払い、もし、傷や内出血があればいつできたか原因を突き止め、対応を考えている。些細な傷でもすぐに家族に、報告している。職員同士連携を密にとり、虐待のないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度は勉強したことはあるが、理解は不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族には、十分な説明を行い、理解、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族からの要望を聞いている。意見箱を置き、いつでも意見がいえるようにしている。	近隣に住む家族は少なくとも週1回の面会があり、東京在住でも毎月訪れてくれます。言動の本意が判りかねて家族に相談したところ、気持ちの奥がみえ対応を変えたため安定したケースもあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、管理者は職員と個人面談を行い、本人の要望や意見を聞き、反映している。	申し送り後「何か問題はありますか？」と尋ねることで職員意見が闊達に上がり、ミニカンファレンスの場となっています。またアイデアや提案は広く採用され、モチベーションアップにつながっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数に応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。時間外勤務がないようにしている。個人面接時、本人の良い所を話している。休み希望をきいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修を受けている。地域の勉強会になるべく参加しているが、不十分である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前に、2か所のグループホームを実習し、勉強させてもらった。市の事業所連絡会に出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、本人の困っている事、不安な事、要望を聞き、支援に結びつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は、家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミュニケーションを図り、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心がけている。 サービスを導入する時、管理者と職員とカンファレンスを行い、支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員中心ではなく、利用者が暮らしやすく安心できる場になるようにしている。 認知症はあっても年長者の発してくれる言葉に注意して、否定しないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい雰囲気を作り、面会には来てもらっている。面会時には、本人と家族との時間を大切にもらえるように、居室にて過ごしてもらっている。毎月発行している通信では、1か月の様子がわかり、喜ばれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会にみえた際は、笑顔で挨拶し、今後も面会に来て頂けるように心がけている。面会時、居室でゆっくりと話をしてもらっている。面会、外出、外泊は自由。	自宅にいた頃からお洒落だと評判の人は今でも美容院に通い、馴染みの活字を今でも愛し新聞購読を続けたり、近所だった人に誘われて喫茶店で過ごす人もおり、一人ひとりの趣味嗜好を尊重しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクなど全員が参加できる内容を考えて行っている。席の配置を考え、利用者同士が関わり合いを持てるようにしている。職員が利用者の中に入り、平等に話をしている。共同で作った作品は、出来上がった時喜びをわかちあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族とは連絡を取っていないが、今後は、グループホームこもれびに行けば相談にのってもらえるという関係を築いていきたいと思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、コミュニケーションを取りながら、本人の思いや暮らしの希望を聞いて、なるべく取り入れている。本を読みたい人は、居室で読んでもらっている。	紙粘土で、だるまの表情を生き生きと描き、その繊細な一面はアセスメントや印象をくつがえすものだった例もあり、残存能力だけでなく潜在能力にも目を向けて、特にレクリエーションの機会を通して探っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方をアセスメントし、一人ひとりの趣味や得意な事を取り入れている。家族が面会時にも、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調を管理して無理のないように過ごしている。 職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族から話を聞き、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画を立て、ケアに繋げている。モニタリングも本人、家族に話を聞いている。	プランに支援経過表も添付されており、目標へ向け内容が忠実におこなわれていることが伝わります。サービス担当者会議には職員間で話し合っただけで再度プランに反映させていません。	家族とは聴取でまかなえてはいますが、サービス担当者会議に招かないことが当たり前とならないよう、また必要に応じて専門職も入るようさらなる充実を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、日々の様子やケアの実践を記録し、職員間で情報を共有している。申し送りは、朝、夕2回行い、報告し、気づいた点はすぐにカンファレンスを行い、検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	さまざまなニーズに対して、職員間でカンファレンスを行い、新しい対応を考え取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用したり、ボランティアの方に慰問してもらったりして、暮らしを楽しむよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで通院していた医療機関に継続する場合があるが、協力医に変更してもらい、月1回定期的に往診してもらっている。	かかりつけ医を継続しているのは1名のみで、他7名は協力医に変更しています。協力医は「普段を診ていないと、いざという時にわからないから」と往診では全員くまなく気にかけてくれます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はいつもと違うと感じた時は、看護師に報告し、支持を仰いでいる。看護師は、協力医と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は、訪問し、病院の相談員、看護師に状況を聞き、情報収集をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は、利用者、家族の思い、生き方を尊重し、家族と協力医と事業所は話し合いを持ち、本人、家族の希望と事業所でできる合意の所で支援していく。	管理者が看護師、24時間オンコールで親身な医師と安心の体制にあります。初めての看取りでは1日6回のバイタルチェックで早期の異常発見にも努め、協力医も往診を増やしてくれたりと総意で取組み、家族とともにお見送りすることができました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が職員に応急手当や初期対応の勉強を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に避難訓練を行っている。昼間に非常階段を使用して、職員が利用者を手引きで階段を下りて避難訓練を行った。消火訓練も行った。施設は、地域の避難場所となっている。	一つの建物に当事業所他2事業所が入っているため、総合防災訓練として磐田消防署立ち合いでおこなっています。避難、消火訓練をメニューとして利用者の手を取り職員が2ヶ所の非常階段から選択して移動しました。	連携を目指して、まずは地域の防災訓練に参加することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務を守り、利用者の個々を尊重し、寄り添えるよう声かけしている。	契約の段階で「こもれば通信に利用者の写真を掲載しても良いか」確認を取り、また個人情報利用同意書にサインをもらっています。全員が女性職員で、男性利用者からは「同性がいい」という希望は幸いにもありません。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望に添えるように心がけているが、時間が決められているものもあり、できないものもある。本人の意志で入浴や、運動は実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけその人のペースを尊重して、一日を過ごしているが、入浴など利用者の状況により判断させてもらっている事もある。個々の趣味等で本人のやりがいを見つけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、職員と服を選び着たい服を選んでいる。男性は、髭の手入れをし、女性で手が上に上がらない人は髪を束ねるのを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前にテーブルを拭いてもらう。お茶を入れてもらう。季節の行事食(年越しそば、お節料理等)忘年会で鍋パーティー、鰯の解体ショーや、外食したり楽しみを取り入れている。	食事は1階の厨房で調理され、配膳車で運ばれています。管理栄養士の配置からカロリー制限、刻み、ソフト、腎臓食と嚥下状態に合わせた食形態が提供できており、忘年会には鍋パーティーと趣向を凝らしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓食、カロリー制限食、トロミを付けたり、刻み食の対応をしている。毎食、摂取量、水分を把握し、食事の様子を観察し、体調管理をしている。摂取量が少ない時は、声かけしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり、口腔ケアを行っている。ブラッシングする前、口をすすんでもらっている。できる人は自分で磨いてもらっている。入れ歯は洗浄液につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に行った時間を記録して、どのくらいの間隔でトイレに行くかわかるようにしている。言葉で尿意、便意を伝えたり、訴え出来ない方も注意して観察している。	排泄チェック表を用いてパターンを掴んでいます。トイレ誘導をまめに取り組んだ結果、尿意がはっきりしてきて日中は布パンツ、夜間は紙パンツで過ごせるまでに向上した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行訓練やラジオ体操を行い、腸の蠕動運動が動くように取り組んでいる。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間など理解して、その人に合った介助をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね曜日や、時間は決めてあるが、声掛けて本人が「今日はやめておく」と言ったら、日を変えている。入浴前は、バイタル測定をしている。	週2回、午前中と定めて清潔保持を図っています。拒否には着替えの服を選んでもらったり、他の利用者に「いい湯だったよ」と勧めてもらっています。未だ使う人はいませんが、重度化へ対応できる装備もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備(居室の温度、湿度、灯り)等安眠できるようにしている。寒い日は、エアコンをつけ、乾燥時は加湿している。利用者の年齢、体調に合わせて、昼寝、就寝時間を決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報を入れ、いつでも見られるようにしている。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように申し送りノートに書いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴は趣味(習字、手芸、歌)などいかにせるように、生活の中に取り入れている。利用者の好きなお菓子、飲み物を家族に持ってきてもらう事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらうように(紫陽花、コスモス、紅葉)外出したり、初詣に出かけたりしている。家族の方と、旅行に行ったり、墓参りに行ったり、近所の方と自宅に帰られたりしている。	初詣は見付天神、紅葉狩りに小國神社、秋桜を見に袋井方面と季節に合わせた外出先を職員で検討して企画しています。家族も連れ出してくれ、亡くなった伴侶の墓参りにでかける人もいます。4階のバルコニーをゴールとした35分程度の歩行訓練、外気浴もあります。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金を預かり、外出時本人の好きな物を食べたり、施設内でおやつを作ったりしている。月末に集計して、家族に報告している。本人がお金を持って安心できるなら、少し持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり、電話をしたり、利用者のやりとりが出来るように支援している。施設の電話にかけてもらい、とりついでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常にフロアが乱雑にならないように整頓し、朝、晩掃除をし、汚れがある時はその時対応している。冬場は加湿し、フロアの換気を1日1回は全室開けて行っている。壁画は、季節感を取り入れ、手作りの物を貼っている。	リビングはテーブルが4つ配置されていますが狭小感はなく、2名で1卓とゆったりと寛げ、潤沢な広さです。花咲か爺さんや富士山の壁画からはクラフトレクの盛況さが覗えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、テレビがあり、ソファでくつろぐ事ができる。居室では、独りになれたり、フロアでは、家族の方とお話しされたりして過ごすこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具、姿見、テーブルなどがあり、思い出の写真、手作りの作品が飾ってある。	居室の表札には好きなものやその人を象徴するもの、例えば「ピアノの先生だった人にはピアノ」「カメラが趣味だった人にはカメラ」が絵として貼られ、色は本人が塗ったとのことでした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全廊下には、手すりが付いており、トイレにはトイレの絵が書いてあり、わかりやすくしている。利用者の居室は、本人の好きな絵や、本人のが作った作品が飾ってあり、部屋をまちがえないようにしている。		